

現状DI値は6期連続改善を示すも、今後の見通しに不安の声

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび2023年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査(2022年7月～12月期)と比較すると、現状DI値は $\Delta 15.4$ となり17.9ポイントの改善を示した。今期調査では、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた令和2年の調査以降、6期連続でDI値が改善した。

業種別に見ると、小売業のDI値が低く $\Delta 52.3$ (前期 $\Delta 50.0$)という結果となった。コロナ禍での新しい生活様式が定着し、それに伴いECサイトで買い物をする一般顧客が増えたことに加えて物価高の影響もあり地方の小規模の小売業においては買い控えが起こった。実際の小売店舗の声としては「輸入商材の入荷が遅いのに加えて物価高の影響をしばらく受けると思う。」という声があった。

業種全体としては、現状DI値が $\Delta 15.4$ となり前期と比較して17.9ポイント改善を示したことから、新型コロナウイルス感染症によるマイナス影響は少しずつ薄らいできたように思える。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響だけではなくロシアのウクライナ侵攻による原材料の値上げによって業績の予測が難しく、将来を不安視する事業者の声が多く見られた。また、見通しDI値は $\Delta 23.9$ と現状DI値 $\Delta 15.4$ と比較して8.5ポイント悪化を示していること、見通しが見つからない中でコロナ禍での借入の返済が始まるなど、地域経済への影響は避けられないと見られ、業況の悪化が懸念される。

(対象 1,100社 回答企業 292社、 回答率 26.5%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

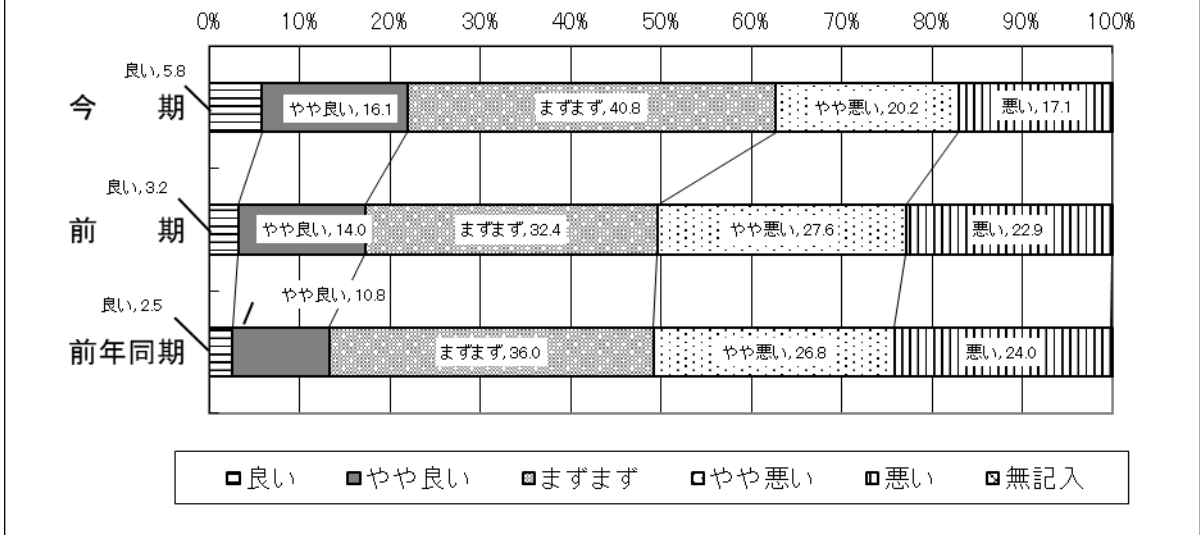
●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は21.9%(前期17.2%:前年同期13.3%)、「やや悪い」「悪い」は37.3%(前期50.5%:前年同期50.8%)となった。

景気動向を示すDI値は、 $\Delta 15.4$ (前期 $\Delta 33.3$:前年同期 $\Delta 37.5$)と前期より17.9ポイント、前年同期より22.1ポイント改善している。

業種別では、製造業DI値 $\Delta 26.0$ (前期 $\Delta 24.6$:前年同期 $\Delta 49.9$)、建設業DI値5.3(前期 $\Delta 23.4$:前年同期 $\Delta 29.9$)、卸売業DI値 $\Delta 50.0$ (前期 $\Delta 33.3$:前年同期 $\Delta 16.7$)、小売業DI値 $\Delta 52.3$ (前期 $\Delta 50.0$:前年同期 $\Delta 50.0$)、飲食業DI値 $\Delta 4.7$ (前期 $\Delta 42.8$:前年同期 $\Delta 46.5$)、サービス業DI値 $\Delta 18.9$ (前期 $\Delta 40.0$:前年同期 $\Delta 20.3$)となった。

図-1 現状について



●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、15.4% (前期 8.9% : 前年同期 11.3%)、「やや悪い」「悪い」は 39.3% (前期 49.8% : 前年同期 54.8%) となった。

DI 値は、△23.9 (前期△40.9 : 前年同期△43.5) と前期から 17 ポイント、前年同期より 19.6 ポイント改善している。

業種別では、製造業 DI 値△40.0 (前期△30.7 : 前年同期△51.6)、建設業 DI 値△7.3 (前期△38.3 : 前年同期△36.2)、卸売業 DI 値△25.0 (前期△33.3 : 前年同期△66.6)、小売業 DI 値△64.3 (前期△54.6 : 前年同期△52.1)、飲食業 DI 値△4.6 (前期△28.6 : 前年同期△46.4)、サービス業 DI 値△18.9 (前期△52.4 : 前年同期△30.4) となった。

図-2 今後の見通し

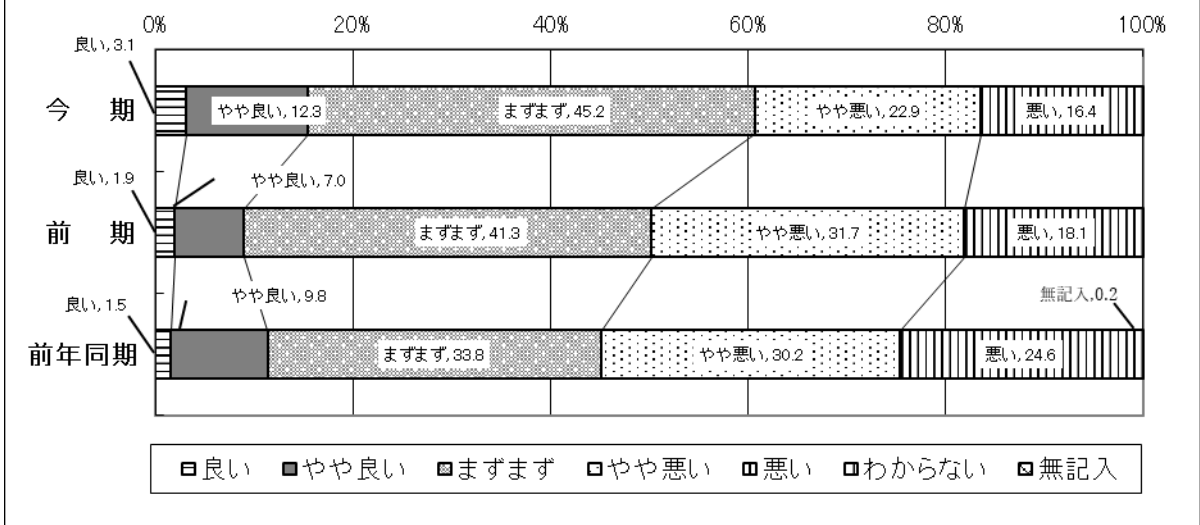
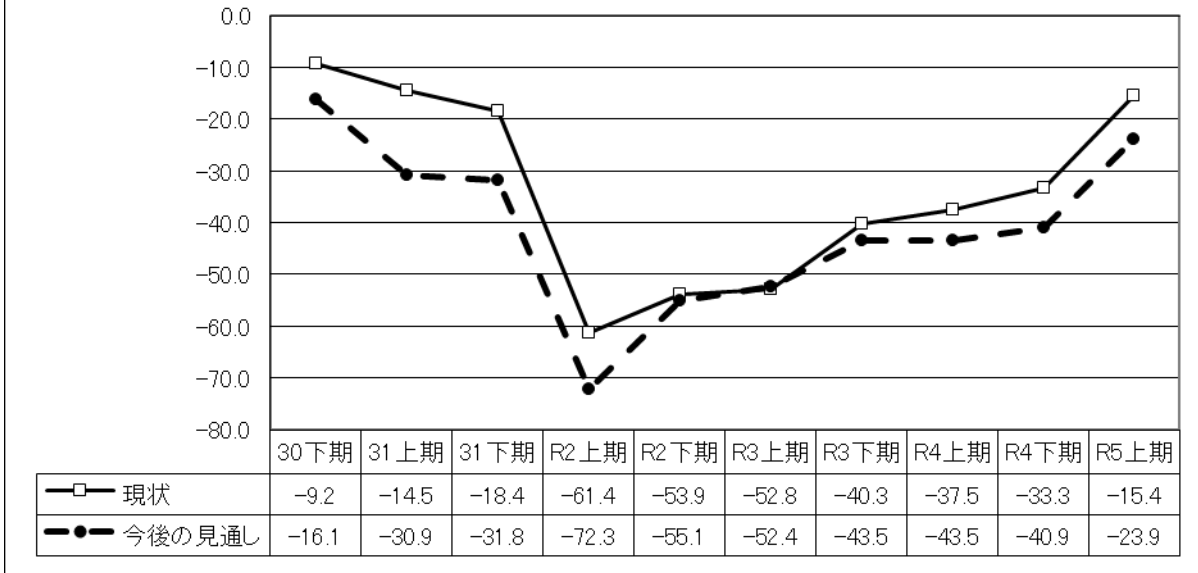


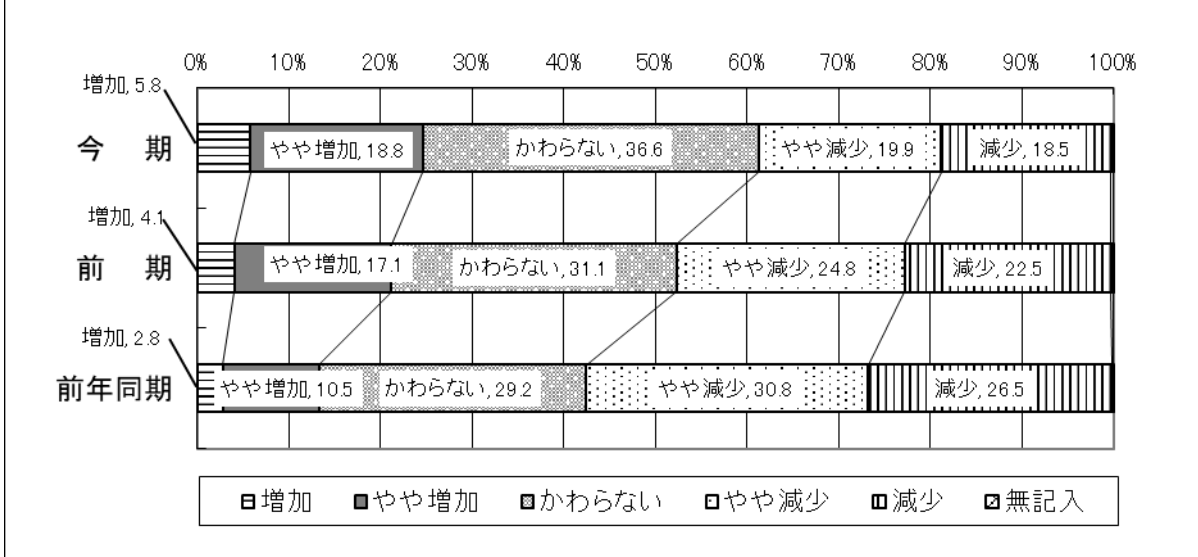
図-3 現状と今後の見通しの推移



●売上状況について (図-4 参照)

「増加」「やや増加」は 24.6% (前期 21.2% : 前年同期 13.3%)、「やや減少」「減少」は 38.4% (前期 47.3% : 前年同期 57.3%) となった。DI 値は△13.8 (前期△26.1 : 前年同期△44.0) と前期より 12.3 ポイント改善、前年同期より 30.2 ポイント改善している。

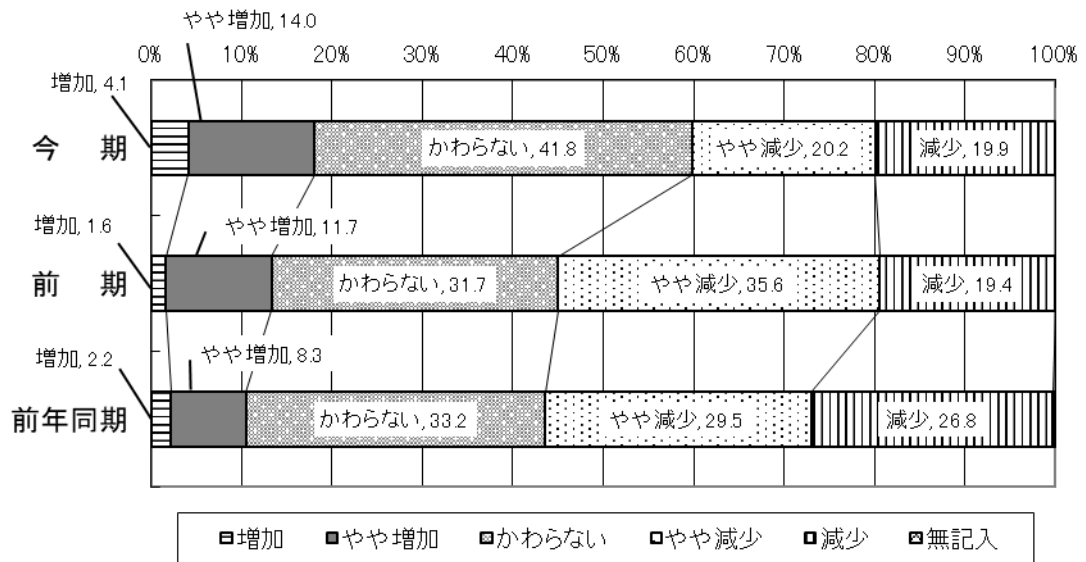
図-4 売上状況



●利益状況について (図-5 参照)

「増加」「やや増加」は 18.1% (前期 13.3% : 前年同期 10.5%)、「やや減少」「減少」は 40.1% (前期 55.0% : 前年同期 56.3%) となった。DI 値は△22.0 (前期△41.7 : 前年同期△45.8) と前期より 19.7 ポイント改善、前年同期より 23.8 ポイント改善している。

図-5 利益状況



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (58.0)	原材料高及び不足 (48.0)	人件費以外の経費増加 (28.0)
	建設業	人手不足 (43.8)	原材料高及び不足 (41.7)	売上・受注の停滞減少 (32.3)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (50.0)	競争激化 (25.0)	製品・商品単価の下落 人手不足 過剰人員 人件費以外の経費増加 原材料高及び不足 人材育成 (12.5)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (54.8)	競争激化 (23.8)	設備店舗の狭小老朽化 (21.4)
	飲食業	原材料高及び不足 (61.9)	売上・受注の停滞減少 (42.9)	設備店舗の狭小老朽化 人件費以外の経費増加 (23.8)
	サービス業	人件費以外の経費増加 (28.3)	設備店舗の狭小老朽化 (26.4)	原材料高及び不足 (24.5)
	交通運輸業	人手不足 (100)	借入難 人件費の増加 人材育成 法的規制等の問題 (50.0)	
	その他	売上・受注の停滞減少 人件費以外の経費増加 (30.0)	人手不足 人件費の増加 原材料高及び不足 人材育成 (20.0)	競争激化 (15.0)
総合	売上・受注の停滞減少 (38.4)	原材料高及び不足 (34.9)	人手不足 (24.7)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (46.0)	原材料高及び不足 (40.3)	人手不足 (26.3)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は21.7%（前期9.1%：前年同期14.3%）、「やや悪い」「悪い」は60.9%（前期59.1%：前年同期57.2%）となった。DI値は△39.1（前期△50.0：前年同期△42.9）と前期より10.9ポイント改善、前年同期では3.8ポイント改善している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は17.4%（前期13.6%：前年同期10.7%）、「やや悪い」「悪い」は69.6%（前期68.2%：前年同期64.3%）となった。DI値は△52.2（前期△54.6：前年同期△53.6）と前期では2.4ポイント改善、前年同期より1.4ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」34.7%（前期22.7%：前年同期21.4%）、「やや減少」「減少」は56.5%（前期50.0%：前年同期64.3%）となった。DI値は△21.8（前期△27.3：前年同期△42.9）と前期より5.5ポイント、前年同期より21.1ポイント改善している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は21.7%（前期9.1%：前年同期10.7%）、「やや減少」「減少」は52.1%（前期45.5%：前年同期53.6%）となった。DI値は△30.4（前期△36.4：前年同期△42.9）と前期より6.0ポイント改善、前年同期より12.5ポイント改善している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は21.7%（前期9.1%：前年同期25.0%）、「やや減少」「減少」は52.2%（前期63.7%：前年同期50.0%）となった。DI値は△30.4（前期△54.6：前年同期△25.0）と前期より24.2ポイント改善、前年同期より5.4ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL：059-382-3222

FAX：059-383-7667